

中部支部の紹介

日本土壌肥料学会中部支部は、中部地区（愛知、岐阜、三重、静岡、福井、石川、富山）で構成されており、土壌肥料学の観点から主に中部地区の農業及び研究発展に貢献するための活動を行っております。会員数は220名程度であり、その所属先は各県の大学、国や県の研究機関や民間企業などと多岐にわたっております。

中部支部では、主な活動内容として毎年2回（春と秋）の研究例会を開催しており、毎年多くの研究成果の発表や意見交換などが行なわれております。また、地域社会貢献の一環として、2006年から豊田市自然観察の森において、地域住民を対象とした『土壌観察会』と称した活動を年1回開催しており、今年度も7月24日に開催いたしました。毎年20～30名程度が当観察会に参加されており、講師としては、中部支部所属の各大学や研究機関等から十数名が参加しております。具体的な内容としましては、講師らによるビデオ、スライドショー及び3D映像を用いた土壌の基礎についての講義と解説を行い、屋外での土壌断面の観察等を行いました。また、屋内実験による土壌呼吸や土壌の吸着能・緩衝能を確認する実験を行い、土壌教育への関心を高めるための活動を行っております。さらに、平成21年度は土壌観察会に加え、岡崎北高校と共催で文部科学省の事業であるサイエンス・パートナーシップ・プロジェクト事業（SPP事業）を実施しました。このSPP事業においては、土壌教育に関するより高度な講義が講師らにより数回にわたり行なっております。また、後にこの事業によって教育を受けた高校生自らが講師となり、同様の実験や観察を地元中学生対象に実施するなどといったことが行われており、さらに、学会発表にまで発展させたということが話題になりました。

私たち中部支部では、以上のような教育活動を通して、より一層の土壌教育普及に貢献していくことを目標としてそれぞれの現場で日々活動しております。



写真左上、講師による特別講義の様子（SPP事業）
右上、グループ討議後の発表の様子（SPP事業）
左、湿地土壌の観察（SPP事業）
左下、土壌硬度の測定（土壌観察会）
右下、3D映像による粘土鉱物の説明（土壌観察会）

